

効果的な福祉実践プログラムモデル形成のために、 ソーシャルワーカーがすべきこと、できること ～さまざまな取り組みの共有と今後の発展の方向性～

【セミナーのねらい】

近年、福祉実践プログラム領域では、EBP/EBSW を含む効果的なプログラムモデル形成への関心が高まっている。これらの取り組みには、科学的なプログラム評価の方法論が不可欠である。同時に、より効果性が高く実施・普及が可能な実践モデルを構築するためには、実践家参画による継続的改善・形成評価が必要とされる。このセミナーでは、福祉実践領域において発展して来た M-D&D アプローチ(芝野ら、2003)や CD-TEP 評価アプローチ法(大島ら、2012)、さらには実践の中から生み出されたモデル開発・形成アプローチ法の経験を共有し、実践に関わる SW、あるいは実践支援・実践研究に関わる SW がなすべきこと、できることを検討する。その上で、今後、実践家が参画しながら進める効果的プログラムモデル形成、プログラム評価のあり方について共通認識を得ることにしたい。

■実施日時:2013年10月13日(日)10:00-16:30

■実施場所:大妻女子大学千代田キャンパス(A棟653教室)
〒102-8357 東京都千代田区三番町12

http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/university/access/map_chiyoda.html

◆◆セミナーの概要◆◆

【午前】

○基調講演:

「ソーシャルワークにおける福祉プログラム評価教育の意義と必要性(仮)」

講師:白澤政和先生(桜美林大学)

○基調報告

「実践家参画型効果的プログラムモデル形成評価の可能性

～さまざまな取り組みにおけるソーシャルワーカーの役割～」

演者:大島巖氏(日本社会事業大学)

○グループ討議・質疑応答

◆昼食◆

【午後】

○シンポジウムと意見交換

・ 贅川信幸氏(日本社会事業大学)

「効果的家族再統合実践モデルの構築～M-D&Dを用いたKaizenアプローチ」

・ 山口麻衣氏(ルーテル学院大学)

「実践家参画型ワークショップを用いたコミュニティソーシャルワーカー配置プログラムの効果モデル構築」

・ 野口啓示氏(神戸少年の町)

「効果的家族再統合実践モデルの構築～M-D&Dを用いたKaizenアプローチ」

・ 木村容子氏(日本社会事業大学)

「被虐待児の専門里親支援モデルの開発～M-D&Dアプローチの検証」

・ 清水由香氏(大阪市立大学)

「精神障害当事者を対象としたホームヘルパー(ピア・ヘルパー)養成事業の意義と課題をプログラム評価の観点から問い直す」

○コーディネータ:大島巖氏(日本社会事業大学)、木村容子氏(同左)

○グループ討議、全体共有と意見交換

「ソーシャルワーカーがすべきこと、できること ～実践家として、実践研究者として～」

■参加費(終日):会員800円・非会員1,000円(資料と会場費) 学生・院生 無料

■昼食・お茶等については、参加者ご自身でご用意ください。

お申し込み:別紙申込み書でお願いいたします。申し込み締め切り:10月4日といたします。

期日を過ぎた場合は事務局<jasw@jasw.jp>までお問い合わせください。担当よりご連絡差し上げます。